

第三次計画における具体的な取組に対する【評価】

(平成 29 年度から令和元年度)

- | | |
|-------------------------------|-----------|
| 1 発達段階に応じた読書活動の推進 | |
| (1) 乳幼児期における取組 | 1 ～ 3 p |
| (2) 学童期から青年中期における取組 | 4 ～ 8 p |
| (3) 特別な支援が必要な子どものための取組 | 9 ～ 11 p |
| (4) 子どもの読書活動の意義や大切さを伝える総合的な取組 | 12 ～ 13 p |
| 2 地域や人とのつながりを深める読書活動の推進 | 14 ～ 15 p |
| 3 学校教育における読書活動の推進 | |
| (1) 学校図書館の機能の充実 | 16 ～ 18 p |
| (2) 情報を読み取り探究型の学習につなげる読書活動の推進 | 19 ～ 21 p |
| 4 オーテピア高知図書館による読書環境の充実・強化 | |
| (1) 子どもの多様なニーズに対応する図書館サービスの充実 | 22 ～ 24 p |
| (2) 市町村立図書館等への支援 | 25 ～ 27 p |
| (3) 学校図書館との連携・協力 | 28 p |
| 5 子どもの読書活動を推進する人材の育成 | 29 ～ 31 p |



第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(1) 乳幼児期における取組

(家庭における読書活動の推進)

乳幼児期の子どもにとって、家庭は、生活の基本の場であり、子どもが本と初めて出会う場でもあります。子どもの読書習慣は、日常生活を通じて形成されるものであり、子どもが読書を楽しみ、自ら読書に親しむことができるように、保護者が意識して読書を日常生活の中に位置づけ、乳幼児期から継続して子どもの読書習慣を育んでいくことが重要です。

そこで、乳幼児が、信頼できる身近な大人に読み聞かせをしてもらい、絵本の楽しさを味わうために、市町村における乳幼児健診等の機会を通して、本と出会う場づくりを支援します。また、子どもの発達段階に応じた本選びができるように、推薦図書リスト等の作成や情報提供に努めます。

(保育所・幼稚園等における読書活動の推進)

保育所・幼稚園等においては、絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わうことができる活動を積極的に行うことが必要です。

そこで、一人ひとりの子どもが絵本等に親しむ機会を充実するための手立てとして、推薦図書リスト「絵本おはなし・宝箱」等を活用し、計画的な読書活動の取組が行われるよう、啓発していきます。

また、保育者に対する園内研修等への支援を通して、保護者による絵本の読み聞かせの大切さを啓発するように努めていきます。

計画の記載内容

①乳幼児健診等における本と出会う場づくりの普及・促進

子どもが身近な大人を通して本と出会うために、県内全市町村において、教育委員会、市町村立図書館等や子育て支援関係の様々な機関が連携・協力して、ブックスタート応援事業等を実施しています。今後も継続して実施されるよう、情報提供や活動の支援に努め、幼児期の読み聞かせ等から発達段階に応じた働きかけや子どもの興味・関心に応じた働きかけを行うとともに、保護者も一緒になって読書に親しむことを促進します。

・ブックスタート応援事業

②子ども読み聞かせ運動(読育運動)の実施

子どもが成長・発達段階に応じた良い本と出会えるように、継続して推薦図書リストである「絵本おはなし・宝箱」と啓発用チラシを作成し、乳幼児健診時に配付します。その際、市町村立図書館等や子育て支援関係の部局、読書ボランティア等の連携・協力により、読み聞かせや講話等を行い、家庭読書や図書館利用につながるよう働きかけます。

また、保育所・幼稚園等へも「絵本おはなし・宝箱」を配付し、保育者等が読み聞かせ等を行う時の選書の参考としたり、掲載している本が読み聞かせされたりするよう、活用を促します。

このように、乳幼児期から継続して読書活動(読み聞かせ)が行われるよう、子ども読み聞かせ運動(読育(どくい)運動)を実施します。

【重】子ども読み聞かせ運動(読育運動)

「主な具体的な取組」における 成果

①乳幼児健診等における本と出会う場づくりの普及・促進

②子ども読み聞かせ運動(読育運動)の実施

・継続した取組によって、県内の多くの自治体では乳幼児健診時等で、乳幼児とその保護者に向けて推薦図書リストの配付や絵本のプレゼント、読み聞かせ等の親子間での読書活動に関わる取組が行われている。(32市町村で実施)

「主な具体的な取組」における 課題

①乳幼児健診等における本と出会う場づくりの普及・促進

②子ども読み聞かせ運動(読育運動)の実施

・市町村によって、乳幼児とその保護者に向けた読書活動を支援する取組の内容に差がある。

・乳幼児健診の際に、ブックスタート事業の一環として絵本の読み聞かせ等の読書支援を乳幼児と保護者に実施していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で、中止・縮小した自治体もあった。

「取組方針及び具体的な取組」に対する評価

ブックスタート応援事業では、親子には本・読書と触れあうきっかけをつくり、保育者には子どもの読書活動への理解や支援の一助になった。しかしながら、親子間・家庭内での読書活動は個人の意思に依存するところから、保護者の読書活動に対する理解や認識の違いによって、読書への親しみの度合いや子どもの読書習慣の定着の有無にも影響を与えていると考えられる。そのため、乳幼児期に関わる人にそれぞれ対応したアプローチとして、保護者に対しても子どもの読書活動を促す支援が必要とされている。

今後取り組むべきことについて

ブックスタートの取組は、親子で図書館・読書活動に関わり始める重要なきっかけであり、成長していくにつれ図書館の利用や家庭内外での読書活動の差がついてしまうことから、各市町村でブックスタート事業に準ずる取組を継続して実施し、子どもと保護者が本と関わり続ける仕組みを今後も支援していく必要がある。

また、親子間・家庭内での読書活動を充実させるため、保護者に読書の教育的・心理的な効果を分かりやすく説明するとともに、絵本を手に取りやすい環境や機会を整える必要がある。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(1) 乳幼児期における取組

(家庭における読書活動の推進)

乳幼児期の子どもにとって、家庭は、生活の基本の場であり、子どもが本と初めて出会う場でもあります。子どもの読書習慣は、日常生活を通じて形成されるものであり、子どもが読書を楽しみ、自ら読書に親しむことができるように、保護者が意識して読書を日常の生活の中に位置づけ、乳幼児期から継続して子どもの読書習慣を育んでいくことが重要です。そこで、乳幼児が、信頼できる身近な大人に読み聞かせをしてもらい、絵本の楽しさを味わうために、市町村における乳幼児健診等の機会を通して、本と出会う場づくりを支援します。また、子どもの発達段階に応じた本選びができるように、推薦図書リスト等の作成や情報提供に努めます。

(保育所・幼稚園等における読書活動の推進)

保育所・幼稚園等においては、絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わうことができる活動を積極的に行うことが必要です。

そこで、一人ひとりの子どもが絵本等に親しむ機会を充実するための手立てとして、推薦図書リスト「絵本おはなし・宝箱」等を活用し、計画的な読書活動の取組が行われるよう、啓発していきます。

また、保育者に対する園内研修等への支援を通して、保護者による絵本の読み聞かせの大切さを啓発するように努めていきます。

計画の記載内容	
具体的な取組	③保育者への園内研修等の充実 保育者に対し、指導計画等に位置付いた指導ができるよう、読書活動の意義や重要性、発達段階に応じた図書の選定、親子読書への取組等について、また、保護者や公立図書館等の職員、読書ボランティア等との連携について、園内研修等の機会を捉え啓発していきます。 ・園内研修支援事業
	④保育所・幼稚園等における読書活動調査の実施 保育所・幼稚園等における読書活動についての調査を実施し、その結果を踏まえ、読書活動のさらなる充実のための啓発に努めていきます。
	「主な具体的な取組」における 成果
	「主な具体的な取組」における 課題
③保育者への園内研修等の充実 ・日々の教育・保育における読書活動の重要性が理解され、読書活動についての園内研修が増加してきている。(H30 79.1%→R1 82.8%) ・年間指導計画に読書活動が位置付けられている園が増加している。(R1 98.6%) ④保育所・幼稚園等における読書活動調査の実施 ・園児と小中高生との読書活動の交流が増加してきた。園児とのふれあいの後、読み聞かせをする活動を取り入れるなど交流活動も工夫が見られ、園と小中高の教職員の情報共有の機会にもなっている。	③保育者への園内研修等の充実 ・若年保育者の増加により、読書活動の大切さや取組方法について研修の機会や内容の充実を図っていくことが必要である。 ④保育所・幼稚園等における読書活動調査の実施 ・保護者、図書館、ボランティア等の連携は、伸び悩みが見られる。 ・園児と小中高生の読書活動は増加しているが、園児と小中学校の教職員との読書活動は非常に少ない。保幼小接続の点からも、就学時健診や一日入学等で小中学校の教職員が読み聞かせをする機会は、子どもの発達の理解や情報共有できる場となることも伝えていく必要がある。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価 各園に訪問する機会を捉え啓発してきた日々の教育・保育における読書活動の重要性が理解され、読書活動についての園内研修が年々増加してきている。年間指導計画に読書活動を位置付けている園も増加してきており、保育者の読書活動への意識が高まってきている。 また、R1の読書活動調査の結果から、92.9%の園で絵本購入のための選書や読み聞かせのための絵本選びの際に「絵本おはなし宝箱」が活用されており、園における読書活動の充実のための手立てとなっている。	
今後取り組むべきことについて ・園児と小中高生との読書活動のさらなる交流内容の充実のために、読書活動に関する研修の機会を設ける。また、保幼小接続の点から、子どもの発達の理解や情報共有できる機会の必要性を、保育者や小中学校の教職員にも啓発していく。 ・保護者、図書館、ボランティア等と連携することで得られるよさを伝えたり、読み聞かせ以外での交流のもち方や図書館の貸出システムの紹介をしたりする。 ・「絵本おはなし宝箱」を保護者への絵本紹介でも活用できることを知らせていく。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(1) 乳幼児期における取組

(オーテピア高知図書館による支援)

オーテピア高知図書館では、子どもたちが自分自身で図書や紙芝居を手にとってゆっくり楽しめる環境と、感性と知性、倫理性と社会性を育むことができるような図書、雑誌、紙芝居、新聞等を提供します。また、お話コーナーや親子コーナーなどにおいて、「読み聞かせ」や「お話し会」等を開催するなど、様々なサービスを提供します。

計画の記載内容	
⑤子どもと本をつなぐイベントの実施 オーテピア高知図書館において、小さいころから子どもが本に親しみ、また、保護者も子どもの読書に関心を持つように、読み聞かせやストーリーテリングなどを定期的に行います。 ⑥児童図書等の資料の充実 オーテピア高知図書館では、長く子どもに読み継がれる基本的な図書やおはなしばかりでなく、視野を広げ、好奇心を育む自然や科学の絵本、在住の外国人や英語学習・多文化理解のための図書・雑誌等を収集し、提供します。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
⑤子どもと本をつなぐイベントの実施 毎週、定例のお話会を実施するほか、月1回乳幼児向けのお話会も行った。また、手話によるお話会や外国語のお話会も行った。 ⑥児童図書等の資料の充実 外国語のものも含め、絵本等を充実した。	⑤子どもと本をつなぐイベントの実施 回数、種類とも十分行っている。 ⑥児童図書等の資料の充実 資料費の裏付けがあるので、十分収集できている。資料費の維持が課題である。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価	
・読み聞かせ、ストーリーテリングについては、回数も多く取り組んでいる。 ・乳幼児向けのものや、外国語のもの、手話によるものなど、多様に取り組んでいる。 ・展示も相当数取り組んでいる。 ・図書の購入についても、読み物や絵本ばかりでなく多くの分野について収集している。 ・新聞・雑誌についても多く収集している。	
今後取り組むべきことについて	
・紙芝居についてもより取り組んで行く。 ・探求的な学習も意識したブックトークについても取り組んで行く。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(2) 学童期から青年中期における取組

(小学校・中学校・義務教育学校における読書活動の推進)

小学校・義務教育学校前期課程では、家庭や保育所・幼稚園等で育んだ読書に親しむ心の芽生えを、教育課程全体で計画的に伸ばし、主体的に読書ができる子どもに育成していくことが大切です。また、中学校・義務教育学校後期課程では、多感なこの時期に自分自身を見つめ、生き方を考え、豊かな心を育むとともに、学習への動機づけや学習内容を定着させたり発展させたりするうえで読書活動は重要であり、大きな役割を果たすものです。

小・中学校・義務教育学校では、既に読書活動への様々な取組が行われています。県は、市町村教育委員会と連携して、読書活動や学校図書館の充実に必要な情報を提供するなど、小・中学校等に対して更に支援を行っていきます。

また、教職員だけでなく読書ボランティア等、地域の人のつながりを生かしながら、児童生徒の家庭における読書を推進します。

(高等学校における読書活動の推進)

高等学校では、生徒の豊かな人間性や社会性を育て、社会の担い手としての資質を身に付けられるように、読書活動を通して、生徒の個性を伸ばし、主体的に社会の中で生きていく力を育てます。

そのために、小・中・義務教育学校における教育の成果を受け継ぎ、読書活動の充実に向けた取組や環境整備を一層進め、生徒の自主的な読書活動の促進を図るとともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣を育てます。

また、興味・関心のある本との出会いや、多感な時期の悩みへの支援が実現できるよう、生徒への情報提供を進めるとともに、専門的知識や幅広い視野を身に付けるために、キャリア教育に位置づけた読書活動を推進します。

(オーテピア高知図書館による支援)

オーテピア高知図書館では、市町村立図書館等と連携しながら、学校図書館に対し、貸出やレファレンスへの協力をを行い、子どもたちの学びを支えます。また、学校図書館の充実に必要となる情報の提供も行います。

計画の記載内容

① 早ね早おき朝ごはん県民運動における読書活動の推進

児童生徒の生活習慣とともに読書習慣をチェックする「生活リズムチェックカード」を小学生(全学年)、中学生(希望校)に配付し、達成した子どもに認定証を発行する取組を継続して行い、読書活動が生活の中に定着していくように働きかけます。

・早ね早おき朝ごはん県民運動

「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
小学校の取組人数、認定者の割合が昨年度より増加し、取組の意欲が高まっている。(H30 42.5%→R1 43.5%) また、中学校では、H30:1校→R1:4校と増加した。	提出学校園所が固定化されており、新規に提出をする取組学校園数を獲得するため、保幼小中PTA連合会の会等でも周知を行う必要がある。

「取組方針及び具体的な取組」に対する評価
生活リズムチェックカードの結果を学校独自で集計し、読書項目など各学校でできた割合を「ほけんだより」に載せるなど、情報共有する学校もあれば、そうでない学校もあるなど、各学校において温度差がある。

今後取り組むべきことについて
・過去の提出校を参考に、次年度に提出のなかった学校については問い合わせを行い現状を確認し取組に結び付くよう働きかけを行う。 ・早ね早おき朝ごはんフォーラムにおいて実践事例の紹介と「生活リズムチェックカード」の周知。 ・PTAへの啓発。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(2) 学童期から青年中期における取組

(小学校・中学校・義務教育学校における読書活動の推進)

小学校・義務教育学校前期課程では、家庭や保育所・幼稚園等で育んだ読書に親しむ心の芽生えを、教育課程全体で計画的に伸ばし、主体的に読書ができる子どもに育成していくことが大切です。また、中学校・義務教育学校後期課程では、多感なこの時期に自分自身を見つめ、生き方を考え、豊かな心を育むとともに、学習への動機づけや学習内容を定着させたり発展させたりするうえで読書活動は重要であり、大きな役割を果たすものです。

小・中学校・義務教育学校では、既に読書活動への様々な取組が行われています。県は、市町村教育委員会と連携して、読書活動や学校図書館の充実に必要な情報を提供するなど、小・中学校等に対して更に支援を行っています。

また、教職員だけでなく読書ボランティア等、地域の人とのつながりを生かしながら、児童生徒の家庭における読書を推進します。

計画の記載内容	
②多様な読書の推進 文学的な読み物に留まらず、新聞や科学雑誌等を含めた、多様な種類の読み物に親しみ、学習にも活用できる、推薦図書リスト「きつとあるキミの心に ひびく本」を新入学児童生徒に配付します。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
・「きつとある キミの心に ひびく本」を改訂し、幅広いジャンルの本を児童生徒に紹介することができている。	・中学校において、「全く読書をしていない」と回答した割合が増加している。(全国学力・学習状況調査結果) 小学校 H27:16.3 → H28:17.4 → H29:18.5 → H30:16.1 → R1:16.1 中学校 H27:29.2 → H28:31.9 → H29:31.7 → H30:25.5 → R1:31.0 ・新聞を読む児童生徒の割合が年々減少している。(全国学力・学習状況調査結果) 小学校 H27:25.2 → H28:25.6 → H29:22.2 → H30:21.0 → R1:20.0 中学校 H27:18.8 → H28:18.2 → H29:13.5 → H30:13.8 → R1:12.7
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価 ・全国学力・学習状況調査において「読書が好き」と回答する児童生徒は依然として全国と比べて高いが、不読率に改善傾向が見られない。	
今後取り組むべきことについて ・地域や家庭と連携し、読書の習慣化や読書意欲を高める取組が必要である。 ・学校図書館活用が充実するようモデルとなる学校を設け、実践を広めていく。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(2) 学童期から青年中期における取組

(小学校・中学校・義務教育学校における読書活動の推進)

小学校・義務教育学校前期課程では、家庭や保育所・幼稚園等で育んだ読書に親しむ心の芽生えを、教育課程全体で計画的に伸ばし、主体的に読書ができる子どもに育成していくことが大切です。また、中学校・義務教育学校後期課程では、多感なこの時期に自分自身を見つめ、生き方を考え、豊かな心を育むとともに、学習への動機づけや学習内容を定着させたり発展させたりするうえで読書活動は重要であり、大きな役割を果たすものです。

小・中学校・義務教育学校では、既に読書活動への様々な取組が行われています。県は、市町村教育委員会と連携して、読書活動や学校図書館の充実に必要な情報を提供するなど、小・中学校等に対して更に支援を行っていきます。

また、教職員だけでなく読書ボランティア等、地域の人とのつながりを生かしながら、児童生徒の家庭における読書を推進します。

(高等学校における読書活動の推進)

高等学校では、生徒の豊かな人間性や社会性を育て、社会の担い手としての資質を身に付けられるように、読書活動を通して、生徒の個性を伸ばし、主体的に社会の中で生きていく力を育てます。

そのために、小・中・義務教育学校における教育の成果を受け継ぎ、読書活動の充実に向けた取組や環境整備を一層進め、生徒の自主的な読書活動の促進を図るとともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣を育てます。

また、興味・関心のある本との出会いや、多感な時期の悩みへの支援が実現できるよう、生徒への情報提供を進めるとともに、専門的知識や幅広い視野を身に付けるために、キャリア教育に位置づけた読書活動を推進します。

(オーテピア高知図書館による支援)

オーテピア高知図書館では、市町村立図書館等と連携しながら、学校図書館に対し、貸出やレファレンスへの協力を行い、子どもたちの学びを支えます。また、学校図書館の充実に必要となる情報の提供も行います。

計画の記載内容	
③読書楽力検定の利用と活用の推進 多様な読書の実現に向けて、様々なジャンルの本に触れるきっかけをつくるために、児童生徒に配付する「きつとある キミの心に ひびく本」と関連づけた読書楽力検定問題を毎年作成します。作成にあたっては、民間団体や児童生徒のアイデアなどを取り入れることなどの工夫を加え、活用の促進を図ります。 【重】・読書楽力検定事業	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
・平成29年度から令和元年度までの取組人数 1,936人 (内訳: H29 1,659人、H30 257人、R1 20人)	・毎年、問題となる本の選定と問題内容を作成しなければならず、実績の割には人的負担が大きくなった。 ・検定への参加は誰でも自由にできるが、教育現場の多忙化を背景に、児童・生徒が問題に取り組み、教職員・図書館職員が監督するには負担も大きく、学校や図書館といった組織としての活動に結びづけていった。 ・例年実施校が固定化している中、大規模校が実施を取り止めたこと等から、実施校、人数の大幅な減少となった。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価 読書を促すだけでは習慣づけるまでには至らない。児童・生徒にとって習慣づけの確立のためには、読書環境の整備を進める必要があり、本と子供をつなぐ学校司書や図書支援員の積極的な介入が求められる。	
今後取り組むべきことについて 学校と公立図書館との連携の強化し、児童・生徒に対して適切な読書指導を行う体制を充実させる。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(2) 学童期から青年中期における取組

(高等学校における読書活動の推進)

高等学校では、生徒の豊かな人間性や社会性を育て、社会の担い手としての資質を身に付けられるように、読書活動を通して、生徒の個性を伸ばし、主体的に社会の中で生きていく力を育てます。

そのために、小・中・義務教育学校における教育の成果を受け継ぎ、読書活動の充実に向けた取組や環境整備を一層進め、生徒の自主的な読書活動の促進を図るとともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣を育てます。

また、興味・関心のある本との出会いや、多感な時期の悩みへの支援が実現できるよう、生徒への情報提供を進めるとともに、専門的知識や幅広い視野を身に付けるために、キャリア教育に位置づけた読書活動を推進します。

計画の記載内容	
④学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 各校の学校経営計画や教育計画に「読書活動の推進」に関する項目を取り入れ、読書活動の重要性について学校全体での共有化を推進するとともに、読書活動推進に向けた組織的な活動がより活性化されるよう取り組みます。 また、各教科・科目、特別活動及び総合的な学習の時間、キャリア教育等、学校の教育活動全体において、学校図書館を探究的な学習の場として積極的・計画的に利用・活用し、各担当者の一層の連携のもと多様な指導の展開が図られるよう、必要な支援を行います。 【重】・高等学校学校図書館教育推進事業 ⑤生徒の自主的な読書活動の推進 朝の読書活動等の一斉読書活動を一層推進するとともに、学校図書館を活用した授業づくり等を通して、生徒の主体的、探究的な学習や読書活動につながるよう取組を推進します。 また、図書委員会活動やボランティア活動等の生徒の自主的な取組がより一層創意工夫したものとなるよう支援します。 ・高等学校学校図書館教育推進事業 ⑥学校図書館の情報発信の推進 図書館便りを発行したり、学校図書館協議会等の外部団体の協力を得たりするなど、読書活動に関する情報発信の充実に継続して取り組みます。 また、興味・関心や必要とする専門性に応じた資料の提供、多感な時期の悩みへの支援等、生徒の多様な要望に応えられるよう、学校図書館担当職員による情報提供を促進します。 ・高等学校学校図書館教育推進事業	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
④学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会」において、学校図書館を探究的な学習の場として積極的・計画的に活用するための講義やワークショップを行い、図書館を利用した授業の増加につながった。 ○学校図書館を利用した授業(県立高等学校の年間授業回数平均) H28 77.0回/1校(実施なし・回答不明 2校) H30 80.4回/1校(実施なし・回答不明 4校) (高知県学校図書館協議会高校部「学校図書館の現状調査」より) ⑤生徒の自主的な読書活動の推進 朝の読書については、半数あまりの高等学校が実施しており、継続的な取組となっている。また、公共図書館で生徒が読み聞かせのボランティアを行うなど、生徒の主体的な取組が徐々に広がっている。 ⑥学校図書館の情報発信の推進 上記の研究協議会において、全国的な動向や県内の取組について情報共有を行った。また、主任実習助手(学校司書)による学校訪問や、学校図書館協議会(高校部、学校司書部)の協力により、読書活動に関する情報発信及び情報共有を継続的に実施している。	④学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 各校の学校経営計画には「学力の向上」や「社会性の育成」に関する項目はあるものの、「読書活動の推進」という項目として県全体で統一して取り入れることはできていない。 ⑤生徒の自主的な読書活動の推進 朝の読書の実施校については、固定化されている。 また、学校図書館を活用した授業づくりや探究的な学習を読書活動につなげるということについては十分な成果が上がっておらず、高校生の不読率は依然として高い傾向にある。 ⑥学校図書館の情報発信の推進 令和元年度末以降は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係る対応として、多くの研修会等が実施できなかった。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価 研究協議会の開催や朝の読書の実施、公共図書館との連携、主任実習助手(学校司書)による学校訪問等を通して子どもの読書活動の推進に継続的に取り組むことができた。これらの取組により、学校図書館や公共図書館の高校生の利用は一定進んでいるものの、学習に図書館を活用している生徒が必ずしも読書活動を行っているとは限らず、高校生の不読率は依然として4割を超えており、生涯にわたって読書に親しむ習慣の定着には課題が残っている。	
今後取り組むべきことについて 図書館の利活用についての継続的な推進を行うとともに、研究協議会等の情報共有の場も引き続き設ける。また、コロナ禍における情報共有の在り方については、検討を進めていく。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(2) 学童期から青年中期における取組

(オーテピア高知図書館による支援)

オーテピア高知図書館では、市町村立図書館等と連携しながら、学校図書館に対し、貸出やレファレンスへの協力をを行い、子どもたちの学びを支えます。また、学校図書館の充実に必要となる情報の提供も行います。

計画の記載内容	
⑦図書資料の充実 オーテピア高知図書館では、長く子どもに読み継がれる基本的な図書の他に読み物だけでなく、視野を広げ、知識を深める社会や科学等の図書や資料を収集し、提供します。 ⑧ティーンズ・サービスの実施 オーテピア高知図書館では、10代の若者(ティーンズ)の興味・関心に応える図書、学習内容を深めることのできる資料等を収集し、提供します。 ⑨読書の楽しさを知るイベントの実施 オーテピア高知図書館では、ティーンズを対象に、ビブリオバトルやブックトーク等の読書の楽しさを知るイベントを行います。その際、ティーンズの参加を促すため、イベントの企画委員の募集等を工夫しながら行います。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
⑦図書資料の充実 幅広く収集した。 ⑧ティーンズ・サービスの実施 開館当初は、不十分であった資料は、開館後の積極的な選書により充実した。利用者も参加して「ティーンズ通信」も作成し、多方面にサービスを展開した。 ⑨読書の楽しさを知るイベントの実施 ビブリオバトルの高校生高知県大会を行い、盛況だった。 ⑩ブックリストの作成・提供 各種作成し、「ティーンズ通信」やウェブサイトに掲載した。	⑦図書資料の充実 資料費の維持が課題である。 ⑧ティーンズ・サービスの実施 資料費の維持と、単に試験勉強のための自習にしか来ないティーンズにどのように読書や図書館資料を使った探究を促していくかが課題である。 ⑨読書の楽しさを知るイベントの実施 コロナ・ウィルス感染症対策下では、ビブリオバトルは行えなかったもので、インターネットを活用したものなどを研究する。 ⑩ブックリストの作成・提供 より探究型学習に対応したものを充実する。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価	
・絵本や読み物ばかりでなく、幅広い分野の図書を充実している。 ・ティーンズ・コーナーについては、開館当初は不十分であったが、その後、幅広く図書を充実している。また、寄付により8類(言語)の本を買収、「立石文庫」と冠しているが、英語の参考書等も買い、当県の中高生の英語力が十分でない現状を改善できるように取り組んでいる。 ・ティーンズ・サービスについては、利用者参加による広報誌の作成など、中高生の主体的な活動を促す取組も始めることができている。 ・イベントについては、お話し会やビブリオバトル他多様な種類のものを行い、おおむね十分と考える。 ・ブックリストについてはある程度、提供できているが、なお、十分ではない。	
今後取り組むべきことについて	
・イベントについては、種類や回数等十分行っているが、今後は、探求的な学習を意識したブックトーク等にも取り組む必要がある。 ・ブックリストについては、探求的な学習を意識したものをより作成して行く必要がある。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(3) 特別な支援が必要な子どものための取組

(特別支援学校における読書活動の推進)

特別な支援を必要とする子どもが、本と出会い、読書活動の楽しさを通して自主的な読書活動ができるようにするためには、一人ひとりの状況に応じた対応を行い、習慣づけることが大切です。

県は、特別支援学校等に対して、特別な支援を必要とする子どもが、人との関わりを楽しみながら読書活動ができるよう読み聞かせやペープサート等の活動の充実を図ったり、読書週間や図書便り等を発行したりすることにより、図書室の活用を進めるための取組の充実に向け支援します。

また、子ども一人ひとりの障害の特性に応じた適切な支援を行うために障害の状態に配慮した図書の整備、補助具や視聴覚機器、パソコン、ディジー図書等、学校図書館における図書環境の整備・充実に取り組みます。

計画の記載内容	
①特別支援学校における読書活動の充実 特別な支援を必要とする子どもが本に親しむことのできる図書の整備、教職員やボランティア等による読み聞かせ、パネルシアター、ペープサート、エプロンシアター、読書発表等の活動を工夫し、一人ひとりの実態に応じた読書活動や読書指導を一層推進します。 また、すべての特別支援学校で読書週間の設定や児童生徒会活動による読書活動を促し、学校図書・視聴覚便りを定期的に発行し、情報交換を行うことで学校と家庭が連携して読書活動への関心を高めるように働きかけます。 ・特別支援学校読書活動推進事業 ②特別支援学校における障害に配慮した読書環境の整備・充実 特別な支援を必要とする子どものニーズを把握し、障害の特性に応じた図書の精選を行い、本の充実に努めるとともに、物流システムの利用や公立図書館の積極的な活用を促進します。また、学校図書館における書棚の高さの工夫、快適に利用するための場所や空間の確保、提示物の精選や配置の工夫、視聴覚機器や補助具等により自主的な読書活動ができるよう読書環境の整備・充実に取り組みます。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
①特別支援学校における読書活動の充実 ・各学校が、読書週間の設定や図書・視聴覚便りの発行を行っており、活動が定着している。 ・特別支援学校読書活動推進事業により、外部講師を招聘した読み聞かせや朗読、エプロンシアター等の取組が進み、読書活動の充実が図ることができた。 ②特別支援学校における障害に配慮した読書環境の整備・充実 ・オーデビア高知図書館をはじめ、移動図書館や公共図書館の利用が増加している。 ・ディジー図書や点字図書の活用、選書会の開催等、障害特性や発達段階に応じた図書室の活用を進めるための取組みができています。	①特別支援学校における読書活動の充実 ・障害特性に応じた読み聞かせについて、教員の読書指導力向上を視点において取り組む必要がある。 ②特別支援学校における障害に配慮した読書環境の整備・充実 ・児童生徒数の増加により、十分な図書室のスペースを確保することが難しい学校がある。 ・オーデビア高知図書館のバリアフリーサービス等、外部資源の活用を図り、より障害に配慮した読書環境を充実させる必要がある。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価 特別支援学校読書活動充実事業により外部講師を招聘し、読み聞かせや朗読、絵本セラピー、マルチメディアディジー等、各学校が障害特性に応じた読書活動を実施することができた。また、読書週間の設定や図書便りの発行などを行い、一人ひとりの実態に応じた読書活動を推進できた。 また、児童生徒の障害特性に応じた図書の購入するための選書会の実施、本の修理やラベリング、分類の仕方を工夫する等、児童生徒が自主的な読書活動がしやすい環境の整備等に取り組んだ学校があった。	
今後取り組むべきことについて 各特別支援学校において、各障害種別ごとに、障害の状態に応じた読書活動の充実、読書環境の整備を図っていく。例えば、視覚障害では、サビエ図書館によるディジー図書の活用、知的障害では、マルチメディアディジーの活用等、ICTを活用した読書環境の充実させていくことなどに取り組んでいく。 また、読み聞かせや、パネルシアター、ペープサート等、障害特性に合わせた読書活動を充実させていくとともに、教員の読書指導力の向上にも取り組んでいく。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(3) 特別な支援が必要な子どものための取組

〔オーテピア高知図書館による支援〕

オーテピア高知図書館は、障害のある人と情報を積極的につなぐため、多様な資料・サービス手段・コミュニケーション手段、ユニバーサルデザインの考えに沿った利用しやすい環境を整え、「だれにでも」「やさしく」利用できる図書館を目指します。また、オーテピア高知声と点字の図書館と連携して資料やサービスを提供します。

計画の記載内容	
③多様な図書資料の充実 オーテピア高知図書館は、視覚・聴覚障害など文字情報や音声・映像情報の利用がそのままでは困難な方へのサービスとして、大活字本、LLブック、朗読CD、カセットブック、音声ガイド・字幕付きDVD、さわる絵本、手話付き絵本、布絵本等を積極的に収集し、提供します。 ④貸出サービスの充実 オーテピア高知図書館は、来館が困難な子どもが資料を利用できるように、病院・社会福祉施設等への資料の団体貸出を行います。また、障害や病気によって図書館への来館が困難な子どもには、無償で自宅等に資料を届けます。 ⑤上映会・体験会等の開催 オーテピア高知図書館において、字幕付き映画、手話付き映画、音声解説付き映画、マルチメディアデージー、音声付き電子書籍等の上映会・体験会を企画します。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
③多様な図書資料の充実 寄付により障害者向け資料のセット「さくらバリアフリー文庫」を組み、県内市町村立図書館や障害者施設に団体貸出しを行い、普及を図った。 ④貸出サービスの充実 高知声と点字の図書館と連携してサービスを行った。 ⑤上映会・体験会等の開催 バリアフリー映画会を毎年、実施するに至っている。	③多様な図書資料の充実 資料費の維持と、認知度の向上が課題である。 ④貸出サービスの充実 認知度の向上が課題である。 ⑤上映会・体験会等の開催 障害者自身に対する認知度の向上がなお課題である。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価	
・バリアフリーな図書館資料の充実については、布の絵本について、高校生によるボランティア作成のものを資料として受け入れることができた。もともと、この種の資料は生産されるもの自体が少ないため、今後のための貴重な一歩である。 ・オーテピア開館後、オーテピア高知声と点字の図書館と連携して、貸出しサービスを行っているが、なお、普及が必要である。 ・お話し会については、手話によるものなど、先進的な取組を行っている。上映会についても、オーテピア高知声と点字の図書館と協同で、バリアフリー映画の上映会を実施しており、先進的な取組となっている。	
今後取り組むべきことについて	
・時間はかかるが、マルチ・メディア・デージー資料や、LL図書、布絵本等をボランティアその他の協力者により作成していくことを進めて行く必要がある。 ・バリアフリー上映会については、小学生以下でも鑑賞できるものも企画する必要がある。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(3) 特別な支援が必要な子どものための取組

(オーテピア高知図書館による支援)

オーテピア高知図書館は、障害のある人と情報を積極的につなぐため、多様な資料・サービス手段・コミュニケーション手段、ユニバーサルデザインの考えに沿った利用しやすい環境を整え、「だれにでも」「やさしく」利用できる図書館を目指します。また、オーテピア高知声と点字の図書館と連携して資料やサービスを提供します。

計画の記載内容	
⑥対面音訳サービスの実施 オーテピア高知図書館では、対面音訳室を3室整備し、複数のニーズに応えられるようにします。また、市町村立図書館でも対面音訳サービスが実施できるように支援します。 ⑦録音図書の提供(デジジー等) オーテピア高知図書館は、高知声と点字の図書館やサピエ図書館が提供する利用制限付き録音図書を、窓口で対象者に貸出できるようにします。 録音図書の周知のため、関連団体へのサンプルの貸出についても検討します。 ⑧電子書籍の導入 オーテピア高知図書館は、読み上げ機能の活用や来館が困難な方への利便性を向上させるため、メリットやデメリットを見極めながら電子書籍を導入します。 ⑨ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施 オーテピア高知図書館は、高知声と点字の図書館と連携し、リクエストに応じて点訳や音訳、「テキスト・データ」化等の変換ができるようボランティアや協力者の養成、スキルアップ講習会等を実施します。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
⑥対面音訳サービスの実施 声と点字の図書館と連携して行っているが、子どもへの直接の実績がほとんどない。 ⑦録音図書の提供(デジジー等) 声と点字の図書館と連携して行っている。 ⑧電子書籍の導入 児童向け電子書籍も積極的に購入している。 ⑨ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施 声と点字の図書館と連携して行っている。	⑥対面音訳サービスの実施 施設・機関等での実績を把握する。 ⑦録音図書の提供(デジジー等) 一般の学校等の発達障害等の子どもに対するサービスを周知する。 ⑧電子書籍の導入 読み上げ対応のものが依然少ないのが課題。 ⑨ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施 依然、高度な専門書に対応できる協力者がいないのが課題。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価	
・障害者へのサービスはオーテピア声と点字の図書館と協同して行っているが、子どもの障害者への実績がつかめていない。 ・電子書籍は、リフロー型(文字がほとんどの書籍)については、ほぼ読み上げの対応ができるが、子ども向けの電子書籍は図やイラスト、写真が豊富なためPDFと同じフィックス型のものが多く、機械による読み上げに対応できていない。	
今後取り組むべきことについて	
・子どもの障害者への実績、とくに、現在、困難を抱えている人の多い発達障害について、何らかの形でつかむ必要がある。 ・障害のある子どもでも利用できる、リフロー型やオーディオ・ブックの電子書籍を増やし、広報していく。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(4) 子どもの読書活動の意義や大切さを伝える総合的な取組

子どもが本に親しみ、読書習慣を身に付けるためには、子どもの読書活動に関わる公立図書館、学校、民間団体等の関係機関の取組とともに、各機関が連携して、子どもの読書活動を総合的に推進することが重要です。

そのため、子どもの読書活動推進に向け、「子ども読書の日」や「志(こころざし)・とさ学びの日」等の機会に、県民の読書活動の機運を醸成することを目的に、読書活動の重要性の広報・啓発や、特色ある優れた実践を行っている学校、図書館、民間団体(個人)の取組を奨励し、活動の一層の充実を図ります。また、子どもの読書活動に関わる情報を家庭や地域に提供していきます。

計画の記載内容	
①市町村による子ども読書活動推進計画策定への支援 市町村における読書活動の取組の充実を図るため、子ども読書活動推進計画が未策定の市町村に対し、先進事例の紹介や助言等により、計画の策定を支援します。また、子ども読書活動推進計画の策定済み市町村に対しては、計画に基づく着実な推進、改正が実施されるよう支援します。 ②「子ども読書の日」(4月23日)等の啓発 「子ども読書の日」(4月23日)や「こどもの読書週間」(4月23日～5月12日)、「秋の読書週間」(10月27日～11月9日)、「志(こころざし)・とさ学びの日」(11月1日)に、読書の楽しさや意義、重要性について県民への啓発を実施します。また、公立図書館や学校等において、民間団体・読書ボランティア等と連携し、その趣旨に沿った行事や催しを実施するように働きかけます。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
①市町村による子ども読書活動推進計画策定への支援 計画の改訂を行っている市町村に対して、優良事例の紹介や他市町村の策定状況等の情報提供を行うことで、モデル事例の横展開が図れた。 ②「子ども読書の日」(4月23日)等の啓発 文部科学省の調査や啓発ポスターの配付もあり、読書週間で読み聞かせや紙芝居、子育て関連書籍の展示等の行事・イベントの実施が定着している。	①市町村による子ども読書活動推進計画策定への支援 計画の作成は33市町村で行われているが、その改訂が行われていない自治体は16市町村である(令和2年10月現在)。 ②「子ども読書の日」(4月23日)等の啓発 公民館図書室では人員にも限りがあり、「子ども読書の日」に関連した行事やイベント等が実施できていない。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価	
読書活動に関わる情報や優良事例を広報・啓発してきたことで、計画の策定・改定や図書館でのイベントの定着が進んだところがある一方で、そのような活動ができていない自治体に対しての具体的な支援が十分にできていなかった。	
今後取り組むべきことについて	
計画の改訂に取り組めていない市町村においては、現状の読書環境を考慮し、計画の何を变えるべきか把握し切れていないことも考えられる。そのため、市町村訪問を通じ優良事例の紹介等の読書活動に関する情報の共有しながら、計画の改定や新たな読書活動の実施を促していきたい。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

1 発達段階に応じた読書活動の推進

(4) 子どもの読書活動の意義や大切さを伝える総合的な取組

子どもが本に親しみ、読書習慣を身に付けるためには、子どもの読書活動に関わる公立図書館、学校、民間団体等の関係機関の取組とともに、各機関が連携して、子どもの読書活動を総合的に推進することが重要です。
そのため、子どもの読書活動推進に向け、「子ども読書の日」や「志(こころざし)・とさ学びの日」等の機会に、県民の読書活動の機運を醸成することを目的に、読書活動の重要性の広報・啓発や、特色ある優れた実践を行っている学校、図書館、民間団体(個人)の取組を奨励し、活動の一層の充実を図ります。また、子どもの読書活動に関わる情報を家庭や地域に提供していきます。

計画の記載内容

③文部科学大臣表彰による優れた取組の奨励、普及、啓発

県内の特色ある優れた実践を行っている学校、図書館、民間団体及び個人を表彰する文部科学大臣表彰制度を活用し、関係者の取組の意欲をさらに高め、活動の一層の充実を図るとともに、取組内容を県民に紹介することにより、子どもの読書活動についての関心と理解を深め、読書の機運醸成を図ります。また、文部科学大臣表彰受賞報告会を行い、ホームページや各研修会、研究大会等で紹介します。

「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
(小中学校課) 文部科学大臣表彰を受賞した学校は、取組を評価されることにより、学校図書館を利活用した教育活動に引き続き意欲的に取り組んでいる。 (高等学校課) 文部科学大臣表彰を受賞した高等学校が、高知県学校図書館教育研究大会の分科会(高校部会)において学校図書館活動の実践事例を発表し、県内の高等学校の読書活動の推進について一役を担うとともに、好事例の情報共有へとつながった。	(小中学校課) 各教育事務所や市町村教育委員会等と連携、情報共有しながら、特色ある優れた実践を行っている学校の掘り起こしが必要である。 (高等学校課) 特色ある優れた実践を行っている学校を見出していくことが課題である。 (生涯学習課) 受賞した学校、図書館、団体(個人)の活動を容易に県内の図書館やボランティアに広く紹介できる仕組みが必要である。

「取組方針及び具体的な取組」に対する評価

(小中学校課)
文部科学大臣表彰を受賞した学校など、優れた取組の発信が十分でない。

(高等学校課)
各校において、学校の経営計画や生徒の実態等を考慮した取組がそれぞれ行われてはいるものの、その中から特色ある優れた実践をどのように掘り起こしていくかということについては課題が残っている。

(生涯学習課)
実践発表等で受賞した活動内容を子どもの読書活動に関わる様々な機関に周知することはできたが、顕著な取組を行っている団体(個人)の情報は集まりにかったため、本表彰の意義や価値への理解を市町村等にも深めてもらう必要があった。

今後取り組むべきことについて

(小中学校課)
これまでの普及・啓発の取組(ホームページでの発信、研修会での紹介等)に加え、県教育委員会内の掲示板でも発信し、読書活動の重要性を広報、啓発していく。

(高等学校課)
特色ある優れた実践が顕在化するよう、各校の取組についての情報収集及び情報共有の仕方について検討する。

(生涯学習課)
推薦の候補として適切な図書館、団体(個人)であるか判断しやすくするよう、読書活動によって現れる客観的な数値や他にはない特徴的な取組等の情報を中心に収集する。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

2 地域や人とのつながりを深める読書活動の推進

子どもが自発的な読書習慣を身に付けるためには、子どもの読書活動に関わる人や地域とのつながりが重要です。公立図書館、学校、民間団体等の関係機関それぞれが工夫して取り組むとともに、各機関が連携を強め、子どもの読書活動を総合的に推進することが重要です。

計画の記載内容	
①読書活動を通じた異年齢交流の促進 小・中学生や高校生が保育所・幼稚園等で読み聞かせ等を行うなど異年齢交流や異校種間交流を推進し、この活動を通して、子どもたちが絵本や物語等の多様な本に触れたり、目的を持って本等を選び豊かに表現したりする機会をつくります。また、交流事例等をホームページ等で情報発信します。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
（幼保支援課） ・小中高生との読書活動の交流が増加し、交流内容の工夫が見られた。 ・園と小中高の教職員とが連携することにより、情報共有の機会となっている。 （小中学校課） ・指定校においては、上級生が下級生に読み聞かせを行うなどの異学年交流を行うことで、読書活動の活性化が図られている。 （高等学校課） 高校生が授業やボランティア等で園児に絵本の読み聞かせを行い、異年齢交流を通じた読書活動を進めることができた。また、読み聞かせの活動が、公共図書館との連携や、生徒自身が目的を持って選書することにつながっている。 取組の一部については、「学校図書館を活用した取組事例集」（文部科学省）において、好事例として紹介することができた。	（幼保支援課） ・交流のめあて、評価、振り返りを行うことで、より充実した取組になるよう促していく必要がある。 （小中学校課） ・異校種に読み聞かせに行くなどの校種間連携を行っている学校が少ない。 （高等学校課） 読書活動に関する異年齢交流や異校種間交流の取組状況については、学校によって個々別々である。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価	
（幼保支援課） 保育所・幼稚園等での小中高生との交流では、絵本の読み聞かせが多く実施されており、交流を実施する園も年々増加傾向にある。交流する前に、保育者から選書や読み聞かせの方法についてのアドバイスがあったり、子どもたちが交流しやすいよう、園児とふれあい遊びを行った後に読み聞かせをしたりするといった交流内容にも工夫が見られる園も出てきている。 （小中学校課） ・読書での異学年交流や異校種連携に関する啓発が不十分である。 （高等学校課） 高校生による園児への絵本の読み聞かせを行っている学校については、継続的な取組となってきた。 同様の実践がまだ行われていない学校については、学校や地域の状況を踏まえうで公共図書館や地域との連携を推進するなど、支援の余地が残されている。	
今後取り組むべきことについて	
（幼保支援課） 交流内容に工夫が見られはじめたが、今後も互いにめあてをもち、活動に対する評価、振り返りを行うことで、より充実した取組になるよう促していく。 （小中学校課） ・読書での異学年交流や異校種間連携の事例を収集し、ホームページ等で発信していく。 （高等学校課） 研究協議会等において、読書活動に関する異年齢交流についての奨励及び啓発を行う。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

2 地域や人とのつながりを深める読書活動の推進

子どもが自発的な読書習慣を身に付けるためには、子どもの読書活動に関わる人や地域とのつながりが重要です。公立図書館、学校、民間団体等の関係機関それぞれが工夫して取り組むとともに、各機関が連携を強め、子どもの読書活動を総合的に推進することが重要です。

計画の記載内容	
②地域学校協働本部等の仕組みを活用した読書活動の推進 地域学校協働本部事業における読み聞かせ活動に多くの地域住民や読書ボランティアに参画していただき、読書を通して地域の大人との交流を深めます。 ・地域学校協働本部事業 ③NPOと連携した読書環境の改善 NPO法人等が他の民間団体等と連携し、公立図書館未設置の中山間地域等において「出張図書館」を開催し、地域の子どもと大人が本や読み聞かせを通じて触れ合い、交流を深め、身近な生活に図書館があることの良さを実感する機会を創出します。 【重】・出張図書館事業 ④地域の教育関連施設と連携した読書活動の推進 文学館や博物館、地域の教育関連施設等と連携し、本と関わるイベント等を実施することを通して、本と読書への興味や子どもと地域とのつながりを深めます。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
②地域学校協働本部等の仕組みを活用した読書活動の推進 ・平成30年度において地域学校協働本部事業の活動・取組として報告されているだけでも、135校で読み聞かせが実施された。 (内訳:小学校105校、中学校29校、小中一貫校1校) ③NPOと連携した読書環境の改善 ④地域の教育関連施設と連携した読書活動の推進 ・市町村訪問等で地域の施設に対する図書館との連携の拡充に向けた助言等を行った。	②地域学校協働本部等の仕組みを活用した読書活動の推進 ・地域学校協働本部の活動として読み聞かせ活動が行われている地域に対してボランティアの講座の開催を広報したが、効果があまり見られなかった。 ③NPOと連携した読書環境の改善 ・公立図書館が未設置の地域において、「出張図書館」を実施するには地域住民の理解や協力だけでなく、市町村教育委員会との綿密な連携が必要があった。 ④地域の教育関連施設と連携した読書活動の推進 ・図書館・図書室として、新たなイベントの開催や連携体制を構築する人員が不足している。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価	
各市町村の持つ特徴や強み、力を入れている取組に応じた読書活動に関わる連携の在り方を個別具体的に支援する必要があった。	
今後取り組むべきことについて	
子どもの読書活動も含め地域の読書環境の改善には、市町村図書館・図書室が学校教育の場だけでなく、他の組織との連携や協働の場・機会をつくりだせるような支援を検討する。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

3 学校教育における読書活動の推進

(1) 学校図書館の機能の充実

学校図書館等は、子どもが気軽に利用でき、自分にあった本を薦めてくれる人がいるなど、魅力ある場所であることが大切です。子どもにとって、豊かな心と感性を育む読書センターとしての機能と、学習に対する興味や関心を呼び起こし、自主的・主体的な学びを支援する学習・情報センターとしての機能を充実させていきます。

計画の記載内容	
①学校図書館図書標準達成校数の拡大 市町村に対して、学校図書館の図書館資料の計画的な整備(廃棄を含む)を働きかけ、児童生徒や教員等の要望に応えられる魅力ある蔵書整備が進められるよう支援します。 ②データベース化の推進 事業主体となる市町村に働きかけ、学校図書館の図書館資料を管理することや児童・生徒の貸出数の把握・学習・情報センターとしての機能強化のために、蔵書情報のデータベース化を図るとともにインターネットによる検索ができる環境整備を進めます。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
①学校図書館図書標準達成校数の拡大 ・古い図書を廃棄したり、新しい本を購入したりする等、学校図書館の環境整備を行っている学校が多い。 ②データベース化の推進	①学校図書館図書標準達成校数の拡大 ・平成30年度に実施した県教育委員会の聴取において、学校図書館図書標準に達成している学校は、小学校125校(65.1%)、中学校44校(42.3%)であり、学校図書館の蔵書数が不足している学校が多い。 ②データベース化の推進
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価	
・市町村教育委員会への働きかけが十分ではない。	
今後取り組むべきことについて	
・学校図書館図書標準に達していない学校に対して、市町村教育委員会を通して改善を促す。 ・蔵書のデータベース化の推進に向けて、引き続き未設置の市町村教育委員会へ働きかけを行う。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

3 学校教育における読書活動の推進

(1) 学校図書館の機能の充実

学校図書館等は、子どもが気軽に利用でき、自分にあった本を薦めてくれる人がいるなど、魅力ある場所であることが大切です。子どもにとって、豊かな心と感性を育む読書センターとしての機能と、学習に対する興味や関心を呼び起こし、自主的・主体的な学びを支援する学習・情報センターとしての機能を充実させていきます。

計画の記載内容	
③レファレンスの協力 オーテピア高知図書館は、県立図書館と高知市民図書館とが役割分担しながら、子どもたちの学びを支えるため、学校からのレファレンス(調べもの)に対して支援を行います。 ④パスファインダーやブックリストの作成・提供 オーテピア高知図書館は、学校図書館の資料選定に役立つパスファインダーやブックリストを作成し、提供します。 ⑤学校図書館の要望に応じたまとめ貸し オーテピア高知図書館では、県立図書館と高知市民図書館とが役割分担しながら、要望するテーマに応じた資料のまとめ貸しを学校図書館に対して行います。 ⑥学校図書館の運営・サービス等への訪問支援 オーテピア高知図書館は、学校図書館の要望に応じて、市町村立図書館職員等とともに依頼訪問を行い、運営やサービスの充実にに向けた相談等の支援を行います。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
③レファレンスの協力 電話や窓口で対応している。 ④パスファインダーやブックリストの作成・提供 市町村向けの通信に掲載し、ホームページにも掲載した。 ⑤学校図書館の要望に応じたまとめ貸し 県立学校向けのセットを作成した。 ⑥学校図書館の運営・サービス等への訪問支援 要望に応じ行っている。	③レファレンスの協力 身近な市町村立図書館も利用してもらうよう促す必要がある。 ④パスファインダーやブックリストの作成・提供 さらに種類を増やし、活用を働きかける。また、市町村でも作成するよう促す。 ⑤学校図書館の要望に応じたまとめ貸し 認知度を向上させて活用を図ることが課題である。 ⑥学校図書館の運営・サービス等への訪問支援 図書館未設置町村への対応が課題である。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価 ・市町村立学校の支援は、市町村立図書館が行うことが基本である。市町村立図書館が学校支援を行えるように後方支援を行う必要がある。この役割分担を明確にする必要がある。 ・一方で、図書館がない自治体の学校図書館支援をどのように行うか明確にする必要がある。 ・レファレンスの協力については、さらに周知する必要がある。 ・県立学校(高校)へのまとめ貸しについては、一定の準備を整えることができた。 ・開館当初の繁忙期にはできなかった高校訪問ができるようになった(支援協力担当が実施)。	
今後取り組むべきことについて ・市町村立学校(図書館)支援を市町村立図書館が行うように、市町村の図書館と教育委員会に働きかける。 ・図書館未設置町村の町村立学校(図書館)支援の方策を検討する。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

3 学校教育における読書活動の推進

(1) 学校図書館の機能の充実

学校図書館等は、子どもが気軽に利用でき、自分にあった本を薦めてくれる人がいるなど、魅力ある場所であることが大切です。子どもにとって、豊かな心と感性を育む読書センターとしての機能と、学習に対する興味や関心を呼び起こし、自主的・主体的な学びを支援する学習・情報センターとしての機能を充実させていきます。

計画の記載内容	
⑦教科研究センターにおける情報提供 教科研究センターは、学校図書館活動に関する先進的な取組や授業実践例の情報収集及び提供・広報を行います。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
・関連する雑誌を定期購入し、その内容の周知を行っている。 ・オーテピア高知図書館のチラシ等を開架するスペースを設けている。	・該当雑誌等の閲覧数は多くない。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価 ・研修やホームページ等を通して周知に努めているが、利用実績の向上には至っていない。	
今後取り組むべきことについて ・外部機関との連携等による資料の充実と広報に努める。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

3 学校教育における読書活動の推進

(2) 情報を読み取り探究型の学習につなげる読書活動の推進

(小・中・義務教育学校における取組)

小・中・義務教育学校においては、市町村教育委員会と連携して、学校の教育活動全体を通して児童生徒が読書に親しみ、読書習慣を身に付けることができるよう、各小・中・義務教育学校の学校経営計画や教育計画に読書活動を位置づけて取り組むとともに、探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業(学校図書館活用型)指定校(以下「指定校」という。)における実践研究を進め、その研究成果を広く普及します。

計画の記載内容					
H29	①小・中・義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 市町村教育委員会と連携して、各小・中・義務教育学校の学校経営計画や教育計画に読書活動を位置づけ、各教科、総合的な学習の時間等、教育活動全体において学校図書館の組織的、計画的な活用を図ることにより読書習慣の形成を促進します。また、調べ学習等の探究的な学習等により、考える力や表現力を育成します。 ・探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業(学校図書館活用型) ②研究指定校における研究の推進と成果の普及 授業での学校図書館の活用方法、新聞を活用した学習活動、読書活動の促進方策や学校図書館担当者の在り方を中心に各指定校における実践研究をまとめ、ホームページ上に公開したりデータ化したりすることにより、学校へ普及啓発を行います。 【重】・探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業(学校図書館活用型) ③発展的な学習の推進 児童生徒の考える力や表現力等の向上を図るために、「高知県わくドキ！ショートコメントコンテスト」や「学校新聞づくりコンクール」等の図書館資料や新聞を活用する取組を推進します。 また、指定校での取組を中心に「高知県学校図書館活動ガイドブック」「高知県学校図書館活動実践事例集」及び「きつとある キミの心に ひびく本」の活用を促し、県内への普及を行います。さらに、各教科等の学習と読書が密接に関連づけられるよう、図書館資料をもとに発展的な学習に広がる取組を促進します。 【重】・探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業(学校図書館活用型)				
H30 R1	①小・中・義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 学校図書館を計画的に利用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に図書及び新聞を生かすことで児童生徒の読書活動を充実させ、言語能力及び情報活用能力の育成を図ります。 ・学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業 ②研究指定校における研究の推進と成果の普及 授業での学校図書館の活用方法、新聞を活用した学習活動、読書活動の促進方策や学校図書館担当者の在り方を中心に各指定校における実践研究をまとめ、ホームページ上に公開したりデータ化したりすることにより、学校へ普及啓発を行います。 【重】・学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業 ③発展的な学習の推進 児童生徒の考える力や表現力等の向上を図るために、「学校新聞づくりコンクール」新聞を活用する取組を推進します。 また、指定校での取組を中心に「高知県学校図書館活動ガイドブック」「高知県学校図書館活動実践事例集」及び「きつとある キミの心に ひびく本」の活用を促し、県内への普及を行います。さらに、各教科等の学習と読書が密接に関連づけられるよう、図書館資料をもとに発展的な学習に広がる取組を促進します。 【重】・学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業				
<table><tr><th>「主な具体的な取組」における 成果</th><th>「主な具体的な取組」における 課題</th></tr><tr><td> ①小・中・義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 ・各教育事務所等と連携し、各指定校の進捗状況等について共有化を図るとともに、計画的・継続的な指導・助言を行うことができた。 ②研究指定校における研究の推進と成果の普及 ・指定校の公開授業を研修の場とし、小中学校の教員が学校図書館資料を活用した授業について研究し、学び合う場を設けたことで、授業改善につながった。また、授業における学校図書館や図書館資料の活用方法及び効果について発信することができた。 ・各指定校の実践記録を小中学校課ホームページに掲載し、各学校の研究成果と今後の取組について周知を図ることができた。 ③発展的な学習の推進 ・学校新聞づくりコンクールを開催し、年度を重ねるごとに応募数等が増加した。 【平成30年度と平成31年度(令和元年度)の比較】 参加校数の増加:99校(H30年度比: +14校) 取組数の増加:5216点(H30年度比: +418点) 応募作品数の増加:161点(H30年度比: +33点) </td><td> ①小・中・義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 ・指定校以外の学校図書館の組織的、計画的な活用の推進が不十分。 ②研究指定校における研究の推進と成果の普及 ・指定校の中にはホームページを開設していない学校もあり、成果普及が十分とはいえない。 ③発展的な学習の推進 ・高知市内の学校の応募数が減少している。 </td></tr></table>		「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題	①小・中・義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 ・各教育事務所等と連携し、各指定校の進捗状況等について共有化を図るとともに、計画的・継続的な指導・助言を行うことができた。 ②研究指定校における研究の推進と成果の普及 ・指定校の公開授業を研修の場とし、小中学校の教員が学校図書館資料を活用した授業について研究し、学び合う場を設けたことで、授業改善につながった。また、授業における学校図書館や図書館資料の活用方法及び効果について発信することができた。 ・各指定校の実践記録を小中学校課ホームページに掲載し、各学校の研究成果と今後の取組について周知を図ることができた。 ③発展的な学習の推進 ・学校新聞づくりコンクールを開催し、年度を重ねるごとに応募数等が増加した。 【平成30年度と平成31年度(令和元年度)の比較】 参加校数の増加:99校(H30年度比: +14校) 取組数の増加:5216点(H30年度比: +418点) 応募作品数の増加:161点(H30年度比: +33点)	①小・中・義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 ・指定校以外の学校図書館の組織的、計画的な活用の推進が不十分。 ②研究指定校における研究の推進と成果の普及 ・指定校の中にはホームページを開設していない学校もあり、成果普及が十分とはいえない。 ③発展的な学習の推進 ・高知市内の学校の応募数が減少している。
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題				
①小・中・義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 ・各教育事務所等と連携し、各指定校の進捗状況等について共有化を図るとともに、計画的・継続的な指導・助言を行うことができた。 ②研究指定校における研究の推進と成果の普及 ・指定校の公開授業を研修の場とし、小中学校の教員が学校図書館資料を活用した授業について研究し、学び合う場を設けたことで、授業改善につながった。また、授業における学校図書館や図書館資料の活用方法及び効果について発信することができた。 ・各指定校の実践記録を小中学校課ホームページに掲載し、各学校の研究成果と今後の取組について周知を図ることができた。 ③発展的な学習の推進 ・学校新聞づくりコンクールを開催し、年度を重ねるごとに応募数等が増加した。 【平成30年度と平成31年度(令和元年度)の比較】 参加校数の増加:99校(H30年度比: +14校) 取組数の増加:5216点(H30年度比: +418点) 応募作品数の増加:161点(H30年度比: +33点)	①小・中・義務教育学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進 ・指定校以外の学校図書館の組織的、計画的な活用の推進が不十分。 ②研究指定校における研究の推進と成果の普及 ・指定校の中にはホームページを開設していない学校もあり、成果普及が十分とはいえない。 ③発展的な学習の推進 ・高知市内の学校の応募数が減少している。				
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価 ・指定校の取組を通して、探究的な授業づくりやPISA型読解力の育成を目指す授業づくりについての研究が進んだ。また、指定校の取組をホームページや研究発表会等で普及することにより、学校図書館を活用した教育活動について発信することができた。 ・教科(特に算数・数学)によっては、学校図書館資料の活用の難しさを感じた学校も多い。					
今後取り組むべきことについて ・学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業は、令和元年度をもって終了となったが、引き続き、学校図書館を活用した研究を行う学校を設け、探究型の学習につなげる読書活動の推進に取り組む。					

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

3 学校教育における読書活動の推進

(2) 情報を読み取り探究型の学習につなげる読書活動の推進

(高等学校における取組)

高等学校においては、生徒の豊かな人間性や社会性を育て、社会の担い手としての資質を身に付けられるように、読書活動を通して、生徒の個性を伸ばし、主体的に社会の中で生きていく力を育てます。

そのために、小・中・義務教育学校における教育の成果を受け継ぎ、読書活動の充実に向けた取組や環境整備を一層進め、生徒の自主的な読書活動の促進を図るとともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣を育てます。

また、多感な時期の悩みに応えたり、興味・関心のある本と出会えたりするよう生徒への情報提供を進めるとともに、専門性や幅広い視野を身に付けるために、キャリア教育に位置づけた読書活動を推進します。

計画の記載内容

④高等学校における学校図書館の組織的、計画的な活用の推進(再掲)

各校の学校経営計画や教育計画に「読書活動の推進」に関する項目を取り入れ、読書活動の重要性について学校全体での共有化を推進するとともに、読書活動推進に向けた組織的な活動がより活性化されるよう取り組みます。

また、各教科・科目、特別活動及び総合的な学習の時間、キャリア教育等、学校の教育活動全体において、学校図書館を探究的な学習の場として積極的・計画的に活用し、各担当者の一層の連携のもと多様な指導の展開が図られるよう、必要な支援を行います。

【重】・高等学校学校図書館教育推進事業

⑤生徒の自主的な読書活動の推進(再掲)

朝の読書活動等の一斉読書活動を一層推進するとともに、調べ学習等を通して、生徒の主体的、探究的な学習や読書活動につながるよう取組を推進します。

また、図書委員会活動やボランティア活動等の生徒の自主的な取組がより一層創意工夫したものとなるよう支援します。

・高等学校学校図書館教育推進事業

⑥学校図書館の情報発信の推進(再掲)

図書館便りを発行したり、学校図書館協議会等の外部団体の協力を得たりするなど、読書活動に関する情報発信の充実に継続して取り組みます。

また、興味・関心や必要とする専門性に応じた資料の提供、多感な時期の悩みへの支援等、生徒の多様な要望に応えられるよう、学校図書館担当職員による情報提供を促進します。

・高等学校学校図書館教育推進事業

「主な具体的な取組」における 成果

④学校図書館の組織的、計画的な活用の推進(再掲)

「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会」において、学校図書館を探究的な学習の場として積極的・計画的に活用するための講義やワークショップを行い、図書館を利用した授業の増加につながった。

○学校図書館を利用した授業(県立高等学校の年間授業回数平均)

H28 77.0回/1校(実施なし・回答不明 2校)

H30 80.4回/1校(実施なし・回答不明 4校)

(高知県学校図書館協議会高校部「学校図書館の現状調査」より)

⑤生徒の自主的な読書活動の推進(再掲)

朝の読書については、半数あまりの高等学校が実施しており、継続的な取組となっている。また、公共図書館で生徒が読み聞かせのボランティアを行うなど、生徒の主体的な取組が徐々に広がっている。

⑥学校図書館の情報発信の推進(再掲)

上記の研究協議会において、全国的な動向や県内の取組について情報共有を行った。また、主任実習助手(学校司書)による学校訪問や、学校図書館協議会(高校部、学校司書部)の協力により、読書活動に関する情報発信及び情報共有を継続的に実施している。

「主な具体的な取組」における 課題

④学校図書館の組織的、計画的な活用の推進(再掲)

各校の学校経営計画には「学力の向上」や「社会性の育成」に関する項目はあるものの、「読書活動の推進」という項目として県全体で統一して取り入れることはできていない。

⑤生徒の自主的な読書活動の推進(再掲)

朝の読書の実施校については、固定化されている。

また、学校図書館を活用した授業づくりや探究的な学習を読書活動につなげるということについては十分な成果が上がっておらず、高校生の不読率は依然として高い傾向にある。

⑥学校図書館の情報発信の推進(再掲)

令和元年度末以降は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係る対応として、多くの研修会等が実施できなかった。

「取組方針及び具体的な取組」に対する評価

研究協議会の開催や朝の読書の実施、公共図書館との連携、主任実習助手(学校司書)による学校訪問等を通して子どもの読書活動の推進に継続的に取り組むことができた。これらの取組により、学校図書館や公共図書館の高校生の利用は一定進んでいるものの、学習に図書館を活用している生徒が必ずしも読書活動を行っているとは限らず、高校生の不読率は依然として4割を超えており、生涯にわたって読書に親しむ習慣の定着には課題が残っている。

今後取り組むべきことについて

図書館の利活用についての継続的な推進を行うとともに、研究協議会等の情報共有の場も引き続き設ける。また、コロナ禍における情報共有の在り方については、検討を進めていく。

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

3 学校教育における読書活動の推進

(2) 情報を読み取り探究型の学習につなげる読書活動の推進

(小・中・義務教育学校における取組)

小・中・義務教育学校においては、市町村教育委員会と連携して、学校の教育活動全体を通して児童生徒が読書に親しみ、読書習慣を身に付けることができるよう、各小・中・義務教育学校の学校経営計画や教育計画に読書活動を位置づけて取り組むとともに、探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業(学校図書館活用型)指定校(以下「指定校」という。)における実践研究を進め、その研究成果を広く普及します。

(高等学校における取組)

高等学校においては、生徒の豊かな人間性や社会性を育て、社会の担い手としての資質を身に付けられるように、読書活動を通して、生徒の個性を伸ばし、主体的に社会の中で生きていく力を育てます。

そのために、小・中・義務教育学校における教育の成果を受け継ぎ、読書活動の充実に向けた取組や環境整備を一層進め、生徒の自主的な読書活動の促進を図るとともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣を育てます。

また、多感な時期の悩みに応えたり、興味・関心のある本と出会えたりするよう生徒への情報提供を進めるとともに、専門性や幅広い視野を身に付けるために、キャリア教育に位置づけた読書活動を推進します。

計画の記載内容	
⑦調べ学習に役立つ資料の収集・提供 オープン高知図書館は、子どもたちの疑問や好奇心に応え、調べ学習に役立つ図書を収集し、提供することによって、学校図書館、市町村立図書館等の蔵書では足りない部分を補います。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
様々なジャンルの図書を購入した。	教科書の単元となっているものは、複本が必要である。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価 ・様々なジャンルの図書を購入している。とくに、ティーンズ向けの図書については、開館時より充実させている。	
今後取り組むべきことについて ・ティーンズ(中高生)の調べ学習は幅広く、かつ、小学生より深いので、より高度な探究的学習にも対応できるよう、さらに図書を充実する。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

4 オーテピア高知図書館による読書環境の充実・強化

(1) 子どもの多様なニーズに対応する図書館サービスの充実

オーテピア高知図書館は、子どもたちの読書習慣の定着や読書環境・情報環境等の一層の充実・活性化を図るため、関係機関と協力・連携しながら、サービスの充実・強化に取り組めます。

また、子どもに小さいころから読書に親しむ習慣を身に付けてもらうため、乳幼児期から本に触れる機会の提供や読書の魅力を発信する人材育成などを行います。また、市町村立図書館等への協力貸出や市町村職員等を対象とした研修を実施することなどにより、市町村立図書館等に対する支援を行います。

計画の記載内容	
①レファレンスの充実 オーテピア高知図書館では、児童・青少年の調べ学習や日常の疑問に応えるレファレンス・サービスの充実を図ります。 ②児童・青少年向け図書等の資料の充実 オーテピア高知図書館では、しかけ絵本や特大絵本など子どもたちの興味や好奇心を引く絵本、外国語や語学の図書、デジタル資料や新聞等の多様な資料を収集し、提供します。 また、大活字本、LLブック、朗読CD、カセットブック、音声ガイド、字幕付きDVD、さわる絵本、布絵本、さらに、文字情報が苦手な子どもにマンガで情報を伝えられる資料も収集し、提供します。 ③電子書籍の導入(再掲) 読み上げ機能の活用や来館が困難な方への利便性を向上させるため、メリットやデメリットを見極めながら電子書籍を導入します。 ④調べ学習に役立つ資料の収集・提供(再掲) 子どもたちの疑問や好奇心に応え、調べ学習に役立つ図書を収集し、提供することによって、学校図書館、市町村立図書館等の蔵書では足りない部分を補います。 ⑤ティーンズ・サービスの実施(再掲) 10代の若者(ティーンズ)の興味・関心に応える図書、学習内容を深めることのできる資料等を収集し、提供します。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
①レファレンスの充実 本の有無の問合せや調べものの問合せをカウンターや電話で行っている。令和元年度は8千件あまり。 ②児童・青少年向け図書等の資料の充実 様々なジャンル・形態の資料を購入している。とくに、ティーンズ向け資料は充実した。 ③電子書籍の導入(再掲) 子ども向け、ティーンズ向けの電子書籍についても積極的に購入した。 ④調べ学習に役立つ資料の収集・提供(再掲) 様々なジャンルのものを買入れた。ティーンズ向けについても充実を図った。 ⑤ティーンズ・サービスの実施(再掲) 蔵書の充実を図り、ティーンズ通信を発行し学校にも配布し、利用を呼びかけている。	①レファレンスの充実 より気軽に問い合わせてもらえるようにする必要がある。 ②児童・青少年向け図書等の資料の充実 資料費の維持が課題である。 ③電子書籍の導入(再掲) 読み上げ可能なコンテンツを増やす必要がある。 ④調べ学習に役立つ資料の収集・提供(再掲) 学校の単元に採り上げられているものについては、複本も必要である。 ⑤ティーンズ・サービスの実施(再掲) 試験対策の座席利用のためにのみ来館する生徒に対し、日常的な読書に導くことができていない。「学習」は試験勉強だけではなく、読書もあることを知らせる必要がある。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価 ・レファレンス・サービスについては、オーテピア高知図書館開館後の件数は想定より多くなっている。 ・資料についても継続的に充実させている。 ・来館はするが、試験対策の自習のみで読書や、主体的な「調べ学習／探究」に結びつかない中高生が多い実態がある。	
今後取り組むべきことについて ・子ども自身へのレファレンス・サービス(大人の児童書に対するレファレンスのみではなく)の推進。 ・試験対策の自習のみで来館する中高生を読書や主体的な「調べ学習／探究」に誘うためのアプローチ。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

4 オーテピア高知図書館による読書環境の充実・強化

(1) 子どもの多様なニーズに対応する図書館サービスの充実

オーテピア高知図書館は、子どもたちの読書習慣の定着や読書環境・情報環境等の一層の充実・活性化を図るため、関係機関と協力・連携しながら、サービスの充実・強化に取り組めます。

また、子どもに小さいころから読書に親しむ習慣を身に付けてもらうため、乳幼児期から本に触れる機会の提供や読書の魅力を発信する人材育成などを行います。また、市町村立図書館等への協力貸出や市町村職員等を対象とした研修を実施することなどにより、市町村立図書館等に対する支援を行います。

計画の記載内容	
⑥物流便による資料の配送 休館日を除き、毎日、協力貸出や相互貸借の資料を市町村に発送します。 ⑦子どもと本とをつなぐイベントの実施(再掲) 小さいころから子どもが本に親しみ、また、保護者も子どもの読書に関心を持つように、読み聞かせやストーリーテリングなどを定期的に行います。 ⑧読書の楽しさを知るイベントの実施(再掲) ティーンズを対象に、ビブリオバトルやブックトーク等の読書の楽しさを知るイベントを行います。その際、ティーンズの参加を促すため、イベントの企画委員の募集等を工夫しながら行います。 ⑨読み聞かせ研修会や講座の実施 保護者や市町村立図書館職員、ボランティアなどを対象とした読み聞かせ研修会や講習会を実施します。 ⑩上映会・体験会の開催(再掲) 字幕付き映画、手話付き映画、音声解説付き映画、マルチメディアデイズ、音声付き電子書籍等の上映会・体験会を企画します。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
⑥物流便による資料の配送 開館日は毎日実施している。 ⑦子どもと本とをつなぐイベントの実施(再掲) 通常のお話会の他、乳幼児向け、手話によるもの、外国語によるものなど多様に展開している。 ⑧読書の楽しさを知るイベントの実施(再掲) ビブリオバトル等を実施した。 ⑨読み聞かせ研修会や講座の実施 各種の勉強会を定例的に行っている。 ⑩上映会・体験会の開催(再掲) 各種実施している。	⑥物流便による資料の配送 業務量増大への対応。市町村立図書館でも蔵書を増やすための予算確保も必要。 ⑦子どもと本とをつなぐイベントの実施(再掲) 児童サービス担当要員の確保(実施はボランティアが行っても運営は職員が行わなければならない場合が多い)。 ⑧読書の楽しさを知るイベントの実施(再掲) 運営要員の確保。 ⑨読み聞かせ研修会や講座の実施 学習者がより積極的に成果を発表することが必要。 ⑩上映会・体験会の開催(再掲) 子ども対象の映画でバリアフリー映画会を行う。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価	
・物流サービスはほぼ十分行われている。 ・イベントの種類・回数はほぼ十分行われている。	
今後取り組むべきことについて	
・イベントの内容について、探究型の学習に対応したものを実施していく必要がある。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

4 オーテピア高知図書館による読書環境の充実・強化

(1) 子どもの多様なニーズに対応する図書館サービスの充実

オーテピア高知図書館は、子どもたちの読書習慣の定着や読書環境・情報環境等の一層の充実・活性化を図るため、関係機関と協力・連携しながら、サービスの充実・強化に取り組めます。

また、子どもに小さいころから読書に親しむ習慣を身に付けてもらうため、乳幼児期から本に触れる機会の提供や読書の魅力を発信する人材育成などを行います。また、市町村立図書館等への協力貸出や市町村職員等を対象とした研修を実施することなどにより、市町村立図書館等に対する支援を行います。

計画の記載内容	
⑪ブックリストの作成・提供(再掲) ティーンズを対象に、将来を考えるものや関心を広げるものから、学習に対応したものまで各種のブックリストを作成し、提供します。 ⑫録音図書の提供(デージー等)(再掲) 高知声と点字の図書館やサビエ図書館が提供する利用制限付き録音図書等を図書館で、対象者に貸出できるようにします。録音図書の周知のため、関連団体へのサンプルの貸出についても検討します。 ⑬対面音訳サービスの実施(再掲) オーテピア高知図書館では、対面音訳室を3室整備し、複数のニーズに応えられるようにします。また、市町村立図書館でも対面音訳サービスが実施できるよう支援します。 ⑭貸出サービスの充実(再掲) 来館が困難な子どもが資料を利用できるように、病院・社会福祉施設等への資料の団体貸出を行います。また、障害や病気により来館が困難な子どもには、無償で自宅等に資料を届けます。 ⑮ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施(再掲) 高知声と点字の図書館と連携し、リクエストに応じて点訳や音訳、「テキスト・データ」化等の変換ができるようボランティアや協力者の養成、スキルアップ講習会等を実施します。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
⑪ブックリストの作成・提供(再掲) 市町村向けの通信や『ティーンズ通信』に掲載し、ホームページにも掲載した。 ⑫録音図書の提供(デージー等)(再掲) 声と点字の図書館と連携して行っている。 ⑬対面音訳サービスの実施(再掲) 声と点字の図書館と連携して行っているが、子どもについては実績がほとんどない。 ⑭貸出サービスの充実(再掲) 声と点字の図書館と連携して行っている。 ⑮ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施(再掲) 声と点字の図書館と連携して行っている。	⑪ブックリストの作成・提供(再掲) 探究的な学習に対応したものもより作成していく必要がある。 ⑫録音図書の提供(デージー等)(再掲) サービスの周知がなお必要。 ⑬対面音訳サービスの実施(再掲) サービスの周知がなお必要。 ⑭貸出サービスの充実(再掲) なお、普及が必要である。 ⑮ボランティアや協力者の養成・スキルアップ講習会等の実施(再掲) 専門書に対応した高度なスキルを有する協力者の育成が課題。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価	
・ブックリストについては、掲載する点数はもっと少なくてもよいので、より多くの種類が必要。 ・障害のある子どもへのサービスについて、より意識して進めていくことが必要。	
今後取り組むべきことについて	
・ブックリストの種類を増やす。 ・障害のある子ども、特に、発達障害を意識してサービスしていく。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

4 オーデビア高知図書館による読書環境の充実・強化

(2) 市町村立図書館等への支援

市町村立図書館等は、子どもが気軽に本と出会い、読書の楽しさを味わうことのできる地域に密着した施設です。オーデビア高知図書館は、市町村立図書館等が地域の中核的施設として、子どもが本に親しみ、生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるよう、市町村立図書館等と連携しながら、読書活動の推進のために環境の整備、機能の充実に支援していきます。また、市町村立図書館等が行う地域の民間団体や読書ボランティア等との連携による子どもの読書活動の取組に対しても支援を行います。

計画の記載内容	
①児童書の全点購入による選書支援 市町村立図書館や学校等が本の選定の際に、参考にできるよう、出版される児童書を全て購入し、展示します。また、県内での巡回展示も実施します。 ②調査研究に必要な資料の提供 市町村立図書館職員をはじめとする読書活動推進に携わる人が調査研究できる図書等を提供します。 ③市町村のニーズに応える資料の収集・提供 市町村立図書館等に対する協力貸出用の資料を収集し、提供します。 ④巡回訪問や依頼訪問等による支援 県の東部、中央、西部の各ブロックの担当司書を配置し、市町村立図書館等への巡回訪問や依頼訪問等により、運営やサービスの充実に向けた相談等の支援を行います。 ⑤協力貸出、レファレンス・サービスへの協力支援 市町村立図書館等から地域の学校等へ団体貸出できるよう、学校図書館自身、市町村立図書館自身の蔵書の充実に促すとともに、児童図書をまとめて貸し出す長期一括貸出等を行います。また、市町村立図書館等の図書館資料では十分な調査・回答が困難なレファレンス・サービスへの協力や助言を行います。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
①児童書の全点購入による選書支援 こどもカウンターの後ろに児童図書選定支援コーナーを設け、市町村立図書館(室)、団体等が閲覧できるようにしている。市町村で選定の参考にした実績も出てきている。 ②調査研究に必要な資料の提供 児童図書研究コーナーを設け、自由に利用に供している。また、資料も継続的に購入し、アップデートしている。 ③市町村のニーズに応える資料の収集・提供 セットを組んで貸出したり、新館の図書館に対して大量に協力貸出した。 ④巡回訪問や依頼訪問等による支援 訪問による業務相談、職員派遣研修を行った。 ⑤協力貸出、レファレンス・サービスへの協力支援 学校からの依頼のうち、市町村で対応できなかったものについて協力貸出しを行った。	①児童書の全点購入による選書支援 保管期間を過ぎたものについて、児童養護施設に頒布を行ったが、なお、活用方法について検討や試行が必要。 ②調査研究に必要な資料の提供 資料費の維持が課題。 ③市町村のニーズに応える資料の収集・提供 共通してニーズのあるものは、市町村自身の資料の充実も働きかける必要がある。 ④巡回訪問や依頼訪問等による支援 MAROデータの利用や分類その他、基本的なことが理解されていないケースも見受けられるので、基礎的な事柄から研修を行っていく必要がある。 ⑤協力貸出、レファレンス・サービスへの協力支援 学校図書館自身、また、それを一次的に支援する市町村立図書館自身の蔵書の充実が必要である。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価 ・児童図書選定支援コーナーは利用要件を段階的に緩和し、使いやすくなったが、なお、認知度を上げることが必要。 ・市町村に対する支援は、支援協力担当が主に担っているが、児童図書の選定や児童サービスの運営については、なお、そのノウハウを伝えるなどの支援が必要。	
今後取り組むべきことについて ・児童図書選定支援コーナー展示図書の事後活用の方策をさらに練り、実施する。 ・児童サービス、とくに運営のノウハウ等に関わる市町村支援の充実。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

4 オーテピア高知図書館による読書環境の充実・強化

(2) 市町村立図書館等への支援

市町村立図書館等は、子どもが気軽に本と出会い、読書の楽しさを味わうことのできる地域に密着した施設です。オーテピア高知図書館は、市町村立図書館等が地域の中核的施設として、子どもが本に親しみ、生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるよう、市町村立図書館等と連携しながら、読書活動の推進のために環境の整備、機能の充実を支援していきます。また、市町村立図書館等が行う地域の民間団体や読書ボランティア等との連携による子どもの読書活動の取組に対しても支援を行います。

計画の記載内容	
⑥児童書に関する情報収集と提供 子どもに対するサービスの取組等、様々な情報を収集するとともに、市町村立図書館等へ児童書選定の参考になる情報を発信します。 ⑦企画展示の実施 市町村立図書館等における企画展示の実施を支援するため、資料やブックリストなどを一括して貸出・提供します。 ⑧相互貸借の活性化 図書館の間で、資料の貸出を行う相互貸借を活性化するため、図書館情報システム未導入の市町村立図書館等の所蔵情報を収集し、県内図書館横断システムで所蔵状況を検索できるようにします。 ⑨物流便による資料の配送(再掲) 休館日を除き、毎日、協力貸出や相互貸借の資料を市町村に配送します。 ⑩アウトリーチ・サービスの実施 県内の図書館やボランティア等と連携し、読み聞かせや本の紹介等を行う出前図書館や講座を実施します。出前図書館等を通じて、市町村立図書館職員等とともに積極的に図書館の活用に向けた「提案」やサービスの「周知」を行います。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
⑥児童書に関する情報収集と提供 市町村向けの通信を定期的に発行・ホームページにも掲載し、情報提供を行った。 ⑦企画展示の実施 すぐ展示に活用できるように図書だけでなくポップや看板もセットで貸出している。 ⑧相互貸借の活性化 Webに目録を公開しているところはすべて横断検索できるようにしている。 ⑨物流便による資料の配送(再掲) 開館日は毎日実施している。 ⑩アウトリーチ・サービスの実施 未実施。	⑥児童書に関する情報収集と提供 選定支援のために全点購入した図書のリストをホームページに掲載する。 ⑦企画展示の実施 ブックリストの作成ができていない。 ⑧相互貸借の活性化 Webに目録を公開できるように、アドバイスしていくことが課題。 ⑨物流便による資料の配送(再掲) 継続していくことが課題。 ⑩アウトリーチ・サービスの実施 職員・スタッフの体制の整備が課題。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価	
・通信を定期的に発行し、各種情報を提供している。 ・児童サービスに関するアウトリーチについては、あまり取り組めていない。	
今後取り組むべきことについて	
・アウトリーチ担当やNPO等とも連携して、具体的なアウトリーチ活動を行っていく。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

4 オーテピア高知図書館による読書環境の充実・強化

(2) 市町村立図書館等への支援

市町村立図書館等は、子どもが気軽に本と出会い、読書の楽しさを味わうことのできる地域に密着した施設です。オーテピア高知図書館は、市町村立図書館等が地域の中核的施設として、子どもが本に親しみ、生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるよう、市町村立図書館等と連携しながら、読書活動の推進のために環境の整備、機能の充実を支援していきます。また、市町村立図書館等が行う地域の民間団体や読書ボランティア等との連携による子どもの読書活動の取組に対しても支援を行います。

計画の記載内容	
⑪市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施 市町村立図書館の職員等に対して、高知県図書館職員研修や個別テーマに応じた研修等を実施し、人材の育成を図ります。 ⑫児童サービス研修会等の実施 市町村立図書館等の司書やその他のスタッフ向けの研修会を実施し、ボランティアや協力者等に対して、読書活動の指導や研修会等の講師ができる人材を養成します。また、ボランティアや学校関係者への講座や研修を教育委員会の学校担当関係部局と連携・協力することにより実施し、人材の育成に努めます。 ⑬図書館活用講座の実施 図書館の本の探し方・調べ方を学び、情報リテラシー（情報の収集・整理・評価・活用の方法・知識）を向上させる講座を実施します。 ⑭広報誌への掲載等 市町村立図書館等を通じて受けられる図書館サービス（市町村立図書館等への協力貸出等）の情報を市町村の発行する広報誌に掲載するなど、周知を図ります。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
⑪市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施 職員派遣研修やブロック別研修を実施。 ⑫児童サービス研修会等の実施 外部講師も招き実施。 ⑬図書館活用講座の実施 図書館活用講座、図書館活用ミニ講座を実施。 ⑭広報誌への掲載等 一部の自治体広報誌でオーテピア高知図書館のサービスも紹介された。	⑪市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施 研修会の講師を行える職員の育成が必要。 ⑫児童サービス研修会等の実施 継続的な実施が課題。 ⑬図書館活用講座の実施 市町村や学校の図書館、役場職員・教員向けのものをもっと実施する必要がある。 ⑭広報誌への掲載等 地元図書館、図書室の利用を促し、それらにない図書もオーテピア高知図書館からまわせるものがあることを広報する必要がある。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価	
・研修会、勉強会、活用講座等多彩に実施している。 ・市町村広報での図書館広報は、一部の市町村で取り組まれている。	
今後取り組むべきことについて	
・多くの市町村広報やホームページで図書館について取り上げ、あわせてオーテピア高知図書館の図書も、地元の図書館・図書室への協力貸出しにより利用できることをさらに周知する必要がある。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

4 オーテピア高知図書館による読書環境の充実・強化

(3) 学校図書館との連携・協力

オーテピア高知図書館では、市民図書館と県立図書館が役割分担し、県立学校等へのサービスは、県立図書館が学校図書館と連携しながら担い、子どもたちの学びを支えるとともに、図書館の運営やサービスの充実にに向けた支援を行います。
高知市以外の市町村立学校は、各市町村立図書館等と県立図書館が連携・協力して支援します。また、高知県立図書館は、県内市町村立図書館等が市町村立学校を効果的に支援できるよう、技術的な助言、資料の選定への助言等を行います。

計画の記載内容	
①市町村立図書館等へのまとめ貸し 市町村立図書館等が当該の市町村立学校に図書を出し出す際に必要な本を市町村立図書館等に貸し出します。 ②訪問支援・研修 市町村立図書館等の職員と一緒に訪問を行い、運営やサービスの充実にに向けた相談等の支援を行います。また、市町村立図書館等の職員やスタッフが、市町村立の学校図書館にアドバイスができるように県立図書館職員等による研修を行います。 ③パスファインダーやブックリストの作成・提供(再掲) 市町村立学校図書館等が児童・生徒に対して、適切に指導できるようにパスファインダーやブックリストを作成し、提供します。また、その作成方法についての研修を行ったり、範例となるものを提供したりします。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
①市町村立図書館等へのまとめ貸し 一括貸出用資料の収集に取り組んでいる。 ②訪問支援・研修 現在のところ、市町村立図書館において対応している。 ③パスファインダーやブックリストの作成・提供(再掲) 市町村の参考になるように、市町村向けの通信にブックリストを掲載し、ホームページにも掲載している。	①市町村立図書館等へのまとめ貸し 授業で利用する本については、学校図書館でも整備するよう促す必要がある。 ②訪問支援・研修 図書館未設置町村の学校図書館支援体制の確立が必要である。 ③パスファインダーやブックリストの作成・提供(再掲) 市町村の実態について十分つかめていない。
・まとめ貸し、訪問支援・研修については、順次行いうようになってきている。 ・パスファインダーが作成できていない。	
今後取り組むべきことについて	
・パスファインダーを作成する。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

5 子どもの読書活動を推進する人材の育成

子どもの読書活動を推進するために、読書活動に携わる市町村立図書館等の専門職員の資質向上に取り組むとともに、子どもと本を結びつける人材の育成及び組織化を図ります。また、学校等へは、読書活動の取組に関する先進的な情報を機会あることに紹介するとともに、読書活動の意義や重要性、学習活動との関わり等に関する研修の場を設け、学校図書館担当者等に働きかけます。

計画の記載内容	
①読書ボランティアの養成 地域や保育所・幼稚園、学校等で読み聞かせ等を行う読書ボランティアの育成、資質向上を図るために、研修や情報交換会を実施するとともに、市町村における読書ボランティアの養成を促します。 また、読書ボランティア活動調査を隔年で行い、活動状況を把握するとともに、読書ボランティアの組織化を支援することにより、活動の活性化を図ります。 【重】・読書ボランティア養成講座 ②読書ボランティアリーダーの養成と組織化 読書ボランティアとして活動されている方々の資質向上を図るため、より専門的な研修を実施し、読書ボランティアの核となる人材を育てるとともに、県内読書ボランティアグループの組織化を図ります。 また、読書ボランティアグループが地域学校協働本部の活動へ関わる仕組みづくりを進め学校と連携しながら地域全体で子どもたちを見守り育てる活動への参加を支援します。 【重】・読書ボランティア機能強化事業 ③子ども司書養成講座の実施 小・中学校における読書活動を活性化するために、子ども司書養成講座を開催し、学校図書館の環境整備や読書に関する広報・啓発に取り組む子どもの読書活動推進リーダーを育成します。 また、子ども司書と図書館司書等のつながりを強め、市町村や学校での読書環境の強化を図ります。 【重】・子ども司書養成事業	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
①読書ボランティアの養成 ・平成29年度から令和元年度までの取組人数 563人 (内訳 H29:192名、H30:199名、R1:172名) ・読み聞かせの技術や年齢にあった本の選定方等を学び、活動の中で生じる疑問・課題への対応方法といった情報交換の場としても機能した。 ・読書ボランティア活動調査の実施(R2.10.22～11.27) 集計した名簿は12月中に各市町村に配付予定。 ②読書ボランティアリーダーの養成と組織化 ③子ども司書養成講座の実施 ・平成29年度から令和元年度までの取組人数 154人 (内訳 H29:54名、H30:55名、R1:45名) ・講座が実施されている市町では図書館の行事として定着化している。 (実施市町:H29:5市町、H30:6市町、R1:7市町)	①読書ボランティアの養成 ・地区別講座では、地域によって講座への関心に温度差があり、受講者が集まりにくかった場所もあった。 ・これから読み聞かせを始めようとする人や普段から活動されている人等、ボランティアとしても経験にも差があることから、ボランティア自身の活動状況に合った研修を提供する必要がある。 ・本講座はボランティアを対象としているため、読み聞かせの技術や絵本の知識を学びたいという保護者や保育者・教師等からのニーズに応えることができない。 ②読書ボランティアリーダーの養成と組織化 ・読書ボランティアの核となる人材の育成に重きを置いた講座の開催に至っていない。 ・気軽に参加できる「ボランティア」の性質上、リーダーとしてその組織を先導しようとする人が現れにくく、研修内容の設定や参加者数の見込みを計画立てることができなかった。 ③子ども司書養成講座の実施 ・講座の開催には、人的・物的コストがかかるため、実施できる図書館に限りがある。 ・未実施の図書館に対して事業内容の周知・理解を深める必要がある。 ・子ども司書に認定された児童生徒の学校内での活動機会の保障。 ・講座を実施する指導者を対象とした研修は内容が限定されるため、幅広く参加者を募ることが難しい。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価 読書ボランティアに対しては、読み聞かせに関する資質を向上させることはできているが、子供の読書活動に関わる地域の人材としては、ボランティアだけでなくPTAや地域学校協働本部といった組織も関わっている。そのため、支援の対象となる地域や人材の性質を考慮したうえで、幅広く学びの機会を創出しながら、読書活動をバックアップする支援環境を整え、その情報が手元に届くような広報が必要である。	
今後取り組むべきことについて ・読書ボランティアに属していない方々でも子供達の読書活動に寄与できるよう学びの場を提供する。 ・図書館が整備されていない地域等、読書活動に関わる研修や支援が薄い地域に対しても対応できる支援。 ・読書活動に関する研修や役立つ情報にアクセスしやすい体制づくり。 ・大人がまず読書をする姿を見せる地域となるような生涯学習全般の支援。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

5 子どもの読書活動を推進する人材の育成

子どもの読書活動を推進するために、読書活動に携わる市町村立図書館等の専門職員の資質向上に取り組むとともに、子どもと本を結びつける人材の育成及び組織化を図ります。また、学校等へは、読書活動の取組に関する先進的な情報を機会あるごとに紹介するとともに、読書活動の意義や重要性、学習活動との関わり等に関する研修の場を設け、学校図書館担当者等に働きかけます。

計画の記載内容	
④読み聞かせ研修会や講座の実施(再掲) オーテピア高知図書館では、保護者やボランティアなどを対象とした読み聞かせ研修会や講習会を実施します。 ⑤市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施(再掲) オーテピア高知図書館は、市町村立図書館の職員等に対して、高知県図書館職員研修や個別テーマに応じた研修等を実施し、人材の育成を図ります。 ⑥児童サービス研修会等の実施(再掲) オーテピア高知図書館は、市町村立図書館等の司書やその他のスタッフ向けの研修会を実施し、ボランティアや協力者等に対して読書活動の指導や研修会等の講師ができる人材を養成します。また、ボランティアや学校関係者への講座や研修を教育委員会の学校担当関係部局と連携・協力することにより実施し、人材の育成に努めます。 ⑦図書館活用講座の実施(再掲) オーテピア高知図書館は、図書館の本の探し方・調べ方を学び情報リテラシー(情報の収集・整理・評価・活用の方法・知識)を向上させる講座を実施します。 ⑧調査研究に必要な資料の提供(再掲) オーテピア高知図書館は、市町村立図書館職員をはじめとする読書活動推進に携わる人が調査研究できる図書等を提供します。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
④読み聞かせ研修会や講座の実施(再掲) 実施した。 ⑤市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施(再掲) 実施した。 ⑥児童サービス研修会等の実施(再掲) 外部講師も招き実施した。 ⑦図書館活用講座の実施(再掲) 実施した。 ⑧調査研究に必要な資料の提供(再掲) 各種、収集している。	④読み聞かせ研修会や講座の実施(再掲) 継続していくことが課題。 ⑤市町村立図書館の職員等に対する研修会の実施(再掲) 継続していくことが課題。 ⑥児童サービス研修会等の実施(再掲) 継続していくことが課題。 ⑦図書館活用講座の実施(再掲) 市町村向け、あるいは、子ども向けにフォーカスしたものの実施が課題。 ⑧調査研究に必要な資料の提供(再掲) より普及する必要がある。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価 ・研修会、勉強会、活用講座等は多様に行っている。 ・調査研究に資する図書を順次、充実している。	
今後取り組むべきことについて ・児童図書研究コーナーの図書の貸出しを増やす。	

第3章 子どもの読書活動推進のための具体的な取組

5 子どもの読書活動を推進する人材の育成

子どもの読書活動を推進するために、読書活動に携わる市町村立図書館等の専門職員の資質向上に取り組むとともに、子どもと本を結びつける人材の育成及び組織化を図ります。また、学校等へは、読書活動の取組に関する先進的な情報を機会あるごとに紹介するとともに、読書活動の意義や重要性、学習活動との関わり等に関する研修の場を設け、学校図書館担当者等に働きかけます。

計画の記載内容	
⑨教職員等の学校図書館活用力の向上 学校図書館協議会・大学等と連携した研修会の実施を通して、学校図書館担当者等の資質向上に取り組めます。また、オーテピア高知図書館では、県立学校の教職員からの学校図書館の活用に関する相談やレファレンス(調べもの)などへの支援を行ったり、学校図書館の資料選定に役立つ情報や資料を提供します。 県教育センターでは、幼保研修において、絵本の果たす役割や読み聞かせの技術等について講義・演習を実施するとともに、若年教員研修において、学校図書館の機能を説明し、活用を推進します。	
「主な具体的な取組」における 成果	「主な具体的な取組」における 課題
(教育センター) 研修後アンケートの記述から、高知県の現状や取組の様子を知ることができたことと、乳幼児期からの読み聞かせの大切さや保育環境について学んだことを、明日からの保育実践に生かせる、生かしてみようと思える研修になっていると推測する。 園内研修等で訪問する園の読書環境を見てみると、子どもがすぐ絵本を手にとることができる環境をつくっていたり、子どもの実態、季節、行事等、保育内容にあった絵本の選定をしていたりしている園が多くなっている。 若年教員研修では、「若年教員研修のしおり」「OJTプログラム」へ示し、各学校の研修に役立てられるようにしている。それにより、各地域の図書や学校図書館を利用した授業の在り方について、初任者研修配置校研修で取り組んでいる学校が多い。 (高等学校課) 「司書教諭及び司書の指導力向上事業に係る研究協議会」を大学や県立図書館と連携して実施し、学校図書館の組織的な活用等について必要な情報の共有化を図ることができた。 併せて、主任実習助手(学校司書)による学校訪問により、特に若年や臨時雇用の学校司書(図書館事務補助職員)の専門力向上につなげることができた。 また、県立高等学校の学校図書館システムをクラウド化したことにより、学校間の相互検索が可能となったため、通常の図書業務の中で他校の蔵書状況を参考にすることができるようになった。 (県立図書館) 「探究的な学習と図書館」というテーマで、当館職員が講師となり研修を実施。	(教育センター) ・幼保研修では、人格形成の基礎を培う乳幼児期に出会う絵本が、子どもの発達や興味・関心に応じた絵本であるよう、日々子ども理解の大切さを伝えていく必要がある。今後も、絵本の選定や読み聞かせの大切さについて伝えるとともに、地域の図書館や人材を生かしながら、豊かな読書活動につながるような研修内容を工夫していく必要がある。 ・初任者研修配置校では読書活動についての研修をしているが、実際の授業等についてどの程度生かされているか把握ができていない。 (高等学校課) 令和元年度末以降は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係る対応として、多くの研修会等が実施できなかった。 (県立図書館) レファレンス等は日常的に行っているが、情報提供は十分でない。
「取組方針及び具体的な取組」に対する評価	
(教育センター) 本研修の目的は、「絵本の果たす役割や、発達にふさわしい絵本の選び方や読み聞かせの技術について講義・演習を行い、保育者の資質の向上を図る」である。 受講者数はH29～R1まで毎年200名前後で、保育現場からのニーズの多い研修となっている。 満足度の高い要因は、絵本の研究に長年取り組み、選書や読み聞かせ等について具体的に話のできる講師を選定していることや、すぐに実践に生かすことのできる研修内容にしていることであると分析する。 若年教員研修では「学校図書館の機能を説明し、活用を推進する」ことについて、一方向ではあるものの概ねできている。 (高等学校課) 教職員の学校図書館活用力の向上に関する取組については、県立図書館からの支援を受けながら、概ね計画的に実施することができている。 また、学校図書館システムのクラウド化により、学校図書館が有する読書センター、学習センター及び情報センターとしての三つの機能を発揮するための環境整備が進んだことで、学校図書館に携わる教職員が、それぞれに求められる役割・職務を果たすための一助となっている。 (県立図書館) レファレンス等は日常的に行っているが、情報提供は十分でない。	
今後取り組むべきことについて	
(教育センター) 子どもがすぐ手に取れるような本棚の配置、落ち着いて読書ができるコーナー等の環境の整備や、発達に道筋に沿った絵本の選び方、絵本で育まれるもの(力)等について理解・実践力を高めるとともに、県幼保支援課の読書活動調査の結果や受講者アンケート等をもとに、より受講者のニーズや園の実態の改善につながる研修内容になるよう見直し・改善を図る。 若年教員研修では、これまで同様に冊子への掲載や研修案内は継続する。 (高等学校課) コロナ禍における教職員の資質向上に係る取組については、検討を進めていく。 (県立図書館) オーテピア高知図書館としては、対応できる人員が配置されていないので、関係課や関係機関と分担・協力して行う。	